

3 高知家の一員であるボランティアの 皆さんにお伝えしたいこと

- (1) 地域における生活課題の事例
- (2) 社会的孤立とその課題
- (3) ボランティアとしてできること
- (4) 寄り添うために留意してほしいこと
- (5) 日々の活動のなかで気づき、つなぐためのポイント

(1) 地域における生活課題の事例

地域福祉とは

理念・目的

地域共生社会の実現

手段

制度的福祉

(フォーマルサービス)

非制度的福祉

(インフォーマルサービス)



「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに

誰もがその人らしく「**地域**」で安心して幸せに暮らしていくために地域住民が互いに支え合う取り組み

その人にとって安心して幸せに暮らしていくためには何が必要でしょうか？

(お金、仕事、住居、家族、友人、趣味、いきがい、健康、医療、介護、社会保険・・・)

今の地域社会では・・・

孤立



少子化

家族・地域のつながりの弱まり・地域力低下
人口減少

高齢化

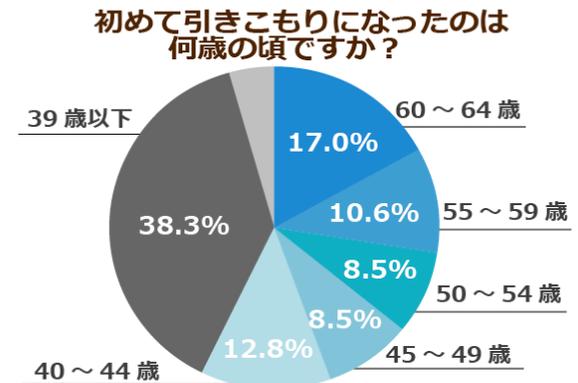
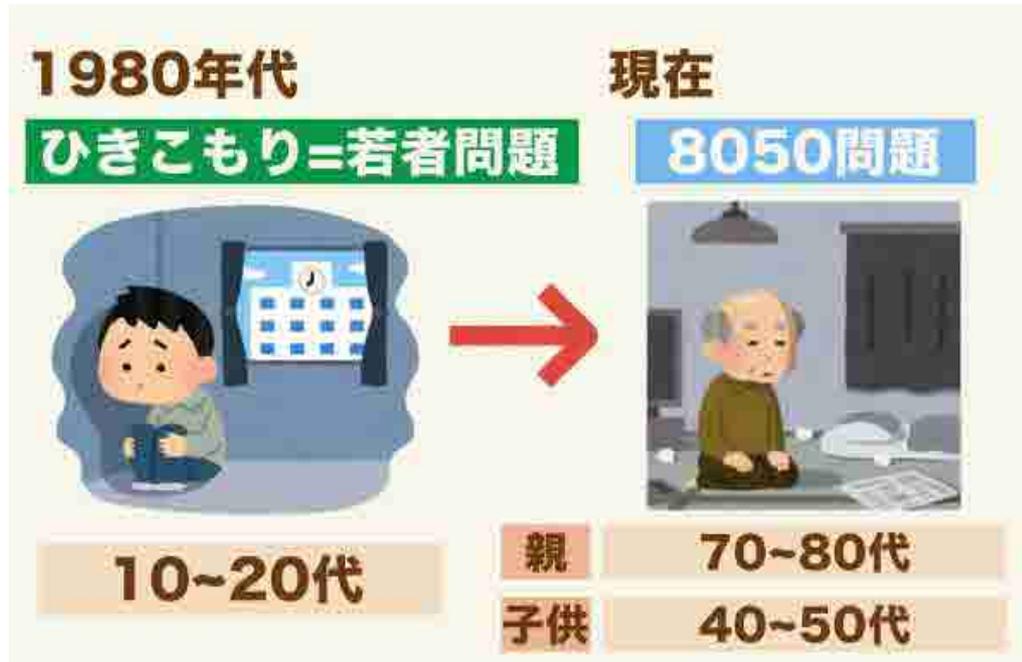
⇒家族や地域で支えられなくなってきたため、様々な課題が顕在化 3

皆さんが住んでいる地域には
複合化・複雑化した生活課題
制度の狭間の生活課題
が潜んでいる可能性があります・・

例えば・・

8050問題

「8050問題」とは、子どもの引きこもりが長期化する一方で、親が高齢化している状態。80代の親と50代の子の世帯であることが多いことから、8050と呼ばれている。往々にして収入や介護の問題などが見受けられる。

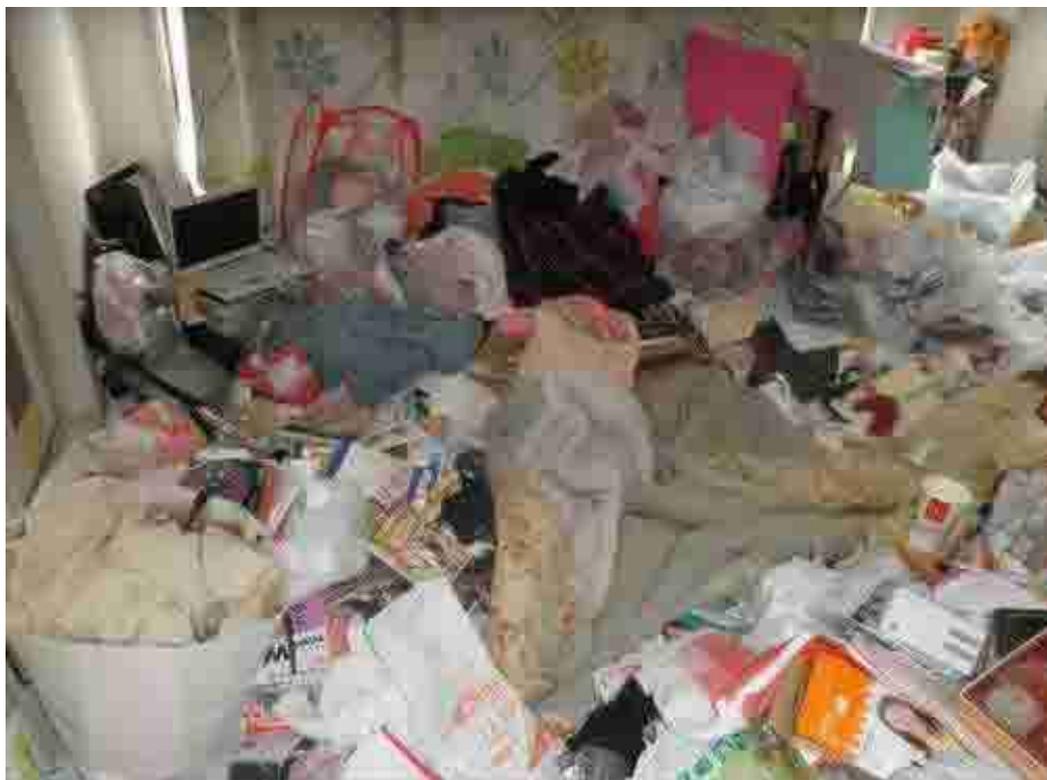


出典：「生活状況の調査2019」内閣府

⇒無職や引きこもりの子と同居している親が要介護状態や亡くなった途端に、生活が立ちいけなくなったり、地域から孤立してしまう。

ゴミ屋敷問題

何らかの事情によりゴミが捨てられず家中がゴミであふれかえっている状況になっている世帯
「病虫害の発生や悪臭など、既に社会的な問題となっていたり、周辺住民からなんらかの苦情等が寄せられているもの」(国土交通省による定義)



⇒悪臭、害虫、火災の危険など
様々な問題が発生する可能性がある。

ゴミ屋敷の解決が難しいのは、単にゴミを片付けるだけではなく、収集癖があったり、ご近所から孤立してしまっているなどの生活上の問題であることが多い。

そのため、単純に片付けをした後、再発防止に向けた福祉面からのアプローチが必要。

ヤングケアラー

「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。（厚生労働省による定義）

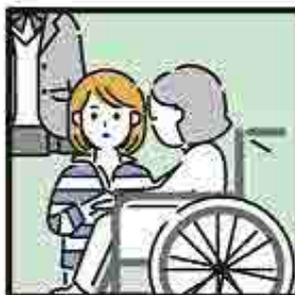
⇒責任や負担の重さにより、子どもの学業や友人関係などに影響が出てしまうことがある。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

多頭飼育崩壊

「多頭飼育崩壊」とは、一般的に多数の動物を飼育している中で適切な管理ができなくなるにより、飼い主の生活状況の悪化、動物の状態の悪化、周辺の生活環境の悪化のいずれか、または複数の問題が生じている状況を指す。

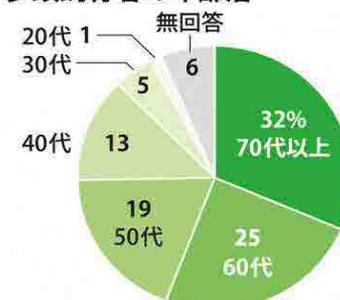
⇒多くの場合、十分な世話がされておらず、不衛生な環境で多数のペットが飼育されており、飼い主だけでなくペットにも病気、ストレス等の支障がでる。また、悪臭などによって、周辺住民の生活環境まで損ねる場合がある。



多頭飼育者の動物飼育頭数



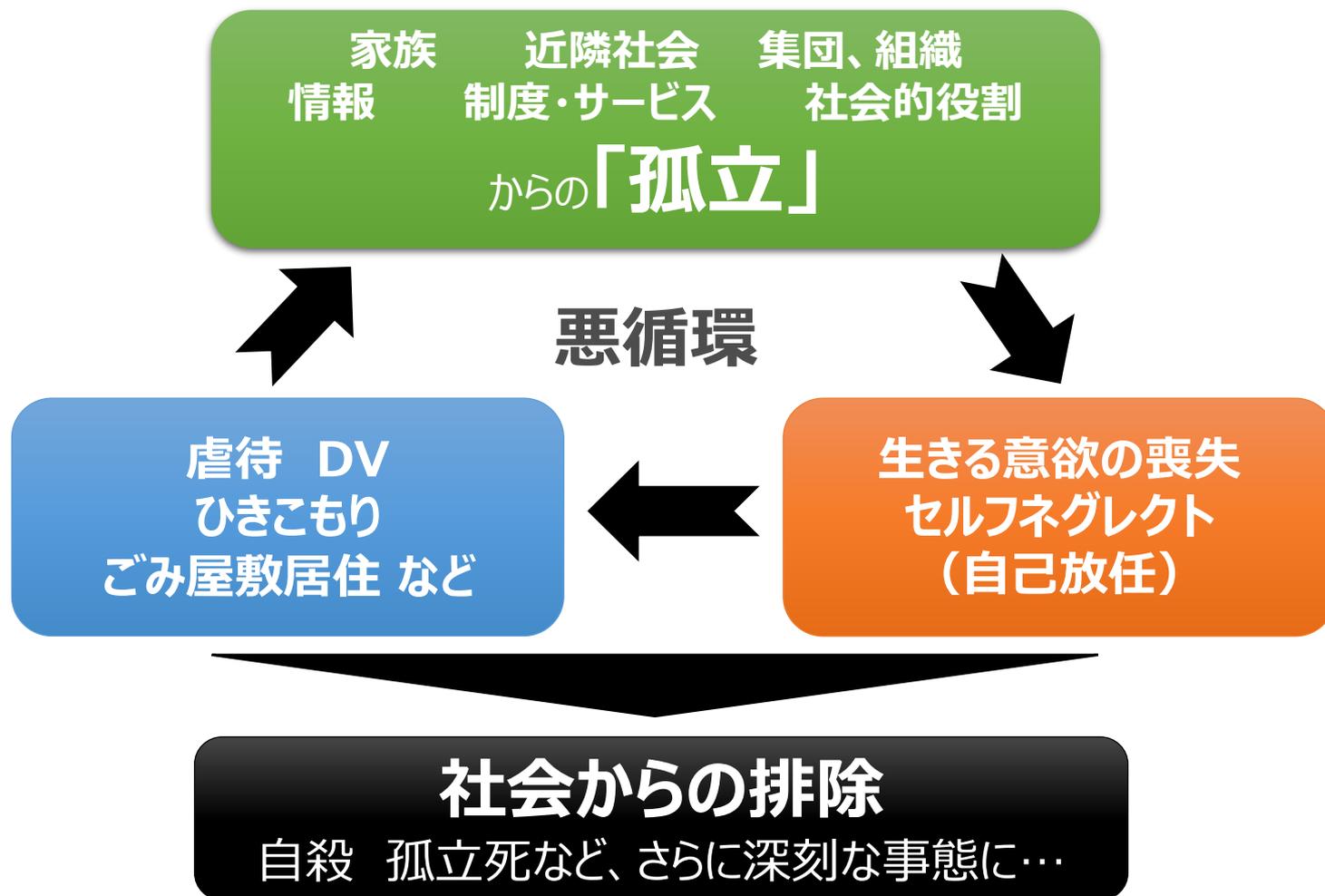
多頭飼育者の年齢層



※環境省の368事例分析結果より。小数点以下を四捨五入しているため合計は100にならない

(2) 社会的孤立とその課題

このような複雑な課題や制度での対応が難しい課題などは、「孤立」が関係していることが少なくありません。



なぜ「孤立」してしまうのか？

- 地域との関係がない
- 頼る人がいない
- 自分や家族の事は自分でなんとかせなあいかん
- どうすればいいのかわからない
- 人に頼りたくない
- 弱みを見せたくない
- （明らかに課題がありそうなのに）私は困っていない

「ない」、「いかん」で孤立が進む

人とのつながりが薄れると…

- 一日中誰とも話さない日がある
→寂しい、高齢者にとって認知症リスク増
- ちょっとした困りごとが頼めない
→結果、無理をしてケガなど…
- 悩みを相談できずに、抱え込む
- 課題を抱えていても周りから気づかれにくい など

様々な課題！ さらに・・・

新型コロナウイルス 感染症



仲間同士で集まりにくい
今まであったつながりが無く
なった・・・

困ってから、

なかなか

「助けて！」

と言えない・・・

A man in a dark jacket is shown in profile, looking upwards. He is standing in front of a wall covered in graffiti. The lighting is dramatic, with the man's face and the graffiti partially illuminated against a dark background.

社会的孤立

⇒近隣住民や普段から関わりのある方にしか見つけられない課題がある。

例えば・・

- ・自ら課題解決に動き出せない人の存在
（軽度の認知症や知的障害者 等）
- ・住民の輪からはじき出される人の存在
（多動傾向のある子と親、妄想のある人 等）



・孤立しがちな人に**気付いて・つなげる**ことが重要

(3) ボランティアとしてできること

「気づく」、「つなげる」、「支え合う」ための大切な考え方

①「お互い様」の意識

- ・環境変化や物事のタイミングなど何らかのキッカケで“生きづらさや困りごと”を抱えてしまうことは誰にでもありうるということ

②負担を増やさない

- ・あくまでも日々活動しているボランティアや地域活動が中心であり、新しく特別な何かをしなければいけないわけではない

③できる事で支え合う

- ・日々の活動の中でこれまでよりも関わる方への困りごとについて少し「意識」や「アンテナ」を広げてみる

どんなことを気にかければいいの・・・？



例えばこんなことありませんか？

- ・家族の介護に疲れ切っている様子・・・
⇒サービスにつながっていない、家族との関係に困っているのかも
- ・騒音や迷惑行為など、ご近所トラブルが多い・・・
⇒地域や家庭から孤立しているのかも
- ・地域の集まりなどにめっきり来なくなった・・・
⇒心や体の具合が悪いのかも

 「ん？」、「何かおかしい」、「ちょっと気になる」が、
早期発見・早期対応の**第一歩** 



- ・見守り≠監視、見張り
- ・見守り＝適度な距離感、自然なつながり、気に掛ける

日々の活動の中でできること



- 積み重ねてきた人と人との関係性やネットワークを活かして「気づく」

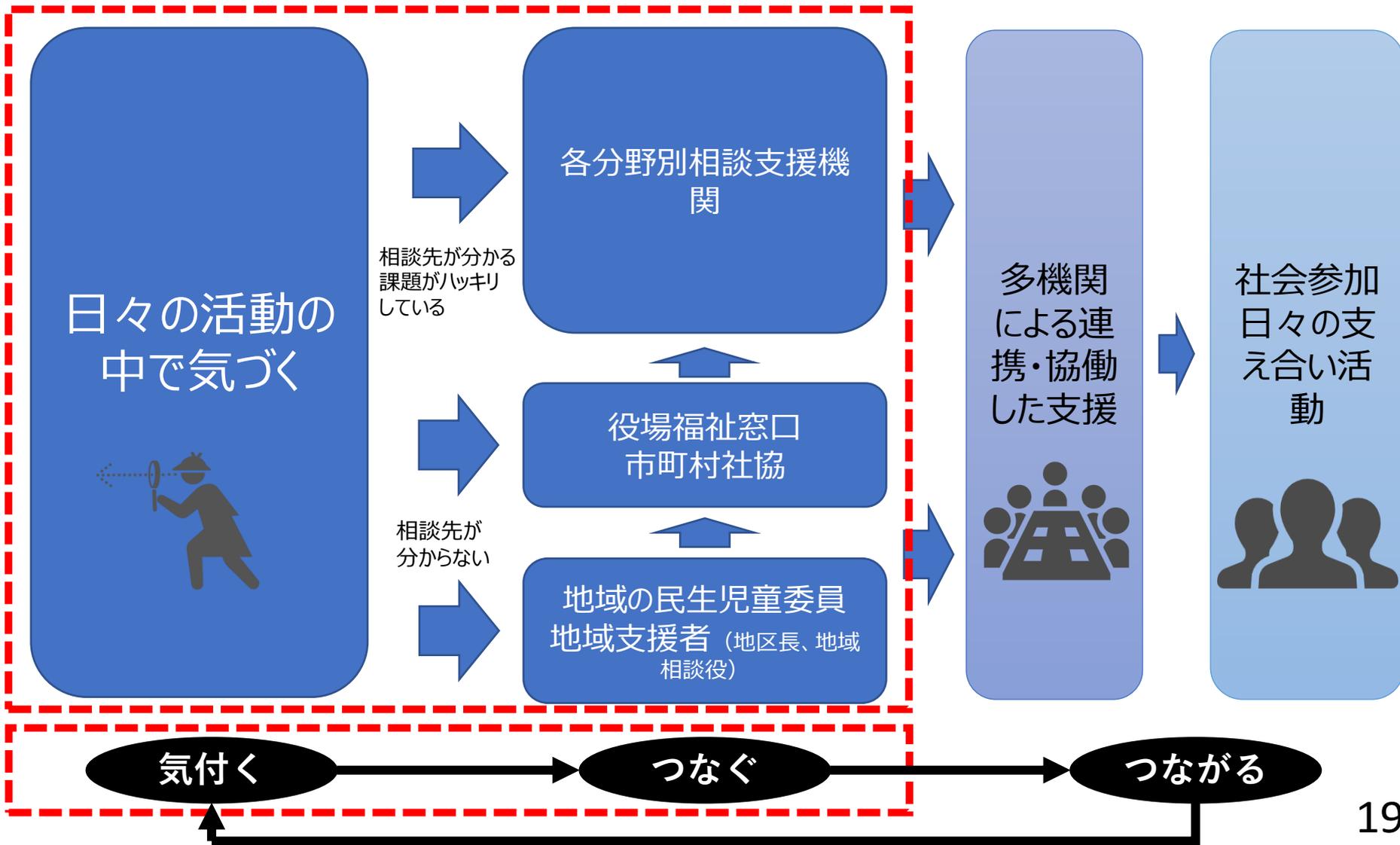


- その「気づき」を個人で抱え込まず、早期に専門職に「つなげる」

近隣住民や普段からの関わりを持つボランティアの皆さんの気づきが早めに専門職につながり、“専門機関の支援”と“住民同士の支え合い”が一体となって安心・安全な地域生活ができるようになる

どこにつなぐか？ つながるか？

フロー図（一例）



CASE1-1 8050問題に直面する世帯

概要

- ・80代の母親と50代の息子は、父が数年前に死去したため二人暮らし
- ・母親は認知症の症状が進みはじめており、身体的、判断能力ともに低下している
- ・息子は就職経験はあるが、人間関係でつまづいたことから転職を繰り返し、数年前から引きこもり状態
- ・これまでの経緯から**発達障害**なども疑われるが、受診などはしたことがない
- ・収入は母親の年金のみであるが、認知症のため**金銭管理**が難しくなっている
- ・ゴミ出しができず、家屋内は**ゴミ屋敷**となっており、**気づいた近隣住民から地区長に相談があった**

ここがキッカケ！

課題



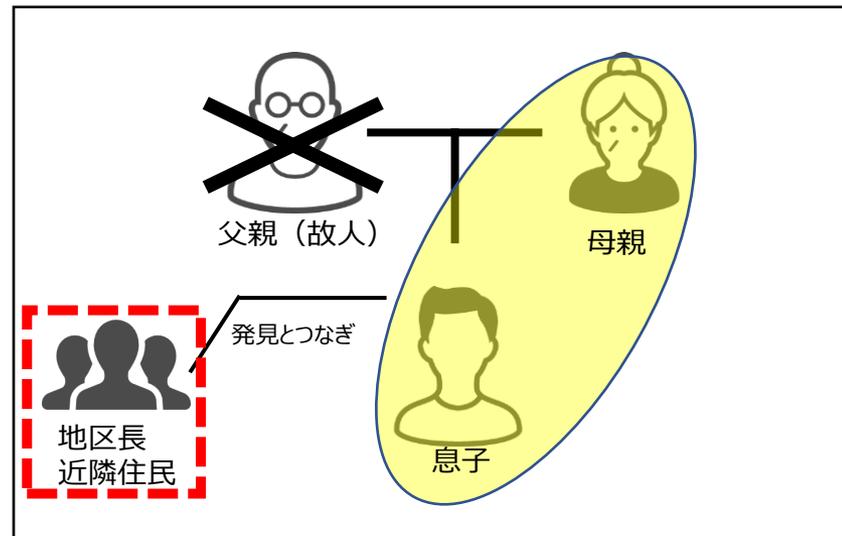
・体の不自由さによる**家事の難しさ**や認知症による**金銭管理**の問題



・子どもが引きこもっているため、人や社会との**つながりが希薄**で社会経験がない



当初状況

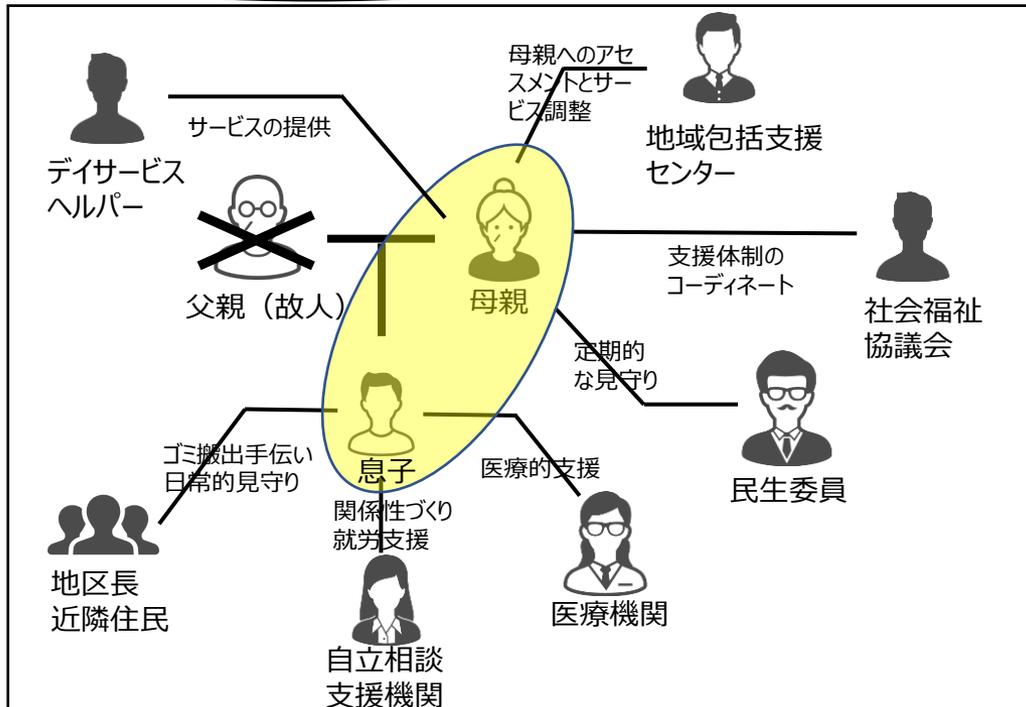


CASE1-2 8050問題に直面する世帯

支援の流れ

- ・社会福祉協議会職員が地域住民を含む関係者との**支援会議**をコーディネートし、情報共有と課題整理
- ・地区長をはじめとする近隣住民と社会福祉協議会、行政環境課、民生委員などが一体となりゴミ問題解決のために**協働**
- ・世帯への見守りやゴミ出し支援の体制を過度な負担とならないよう**役割分担して支え合い**体制を構築
- ・母親へのアプローチは地域包括支援センターが担い、必要な**サービス**につなげた
- ・息子とは定期的な訪問を通じて関係性をつくり、自立相談支援機関が中心となり**社会参加や就労支援**

多機関連携の支援



支援のポイント

1. 地域住民の**気付きと参加**による課題解決に向けた対応
2. 地域住民を含む**関係機関との協働体制**

代表的な各分野別相談機関

高齢分野

地域包括支援センター、役場高齢福祉担当窓口、高齢者総合相談、市町村社協 など

障害分野

福祉事務所や役場障害福祉担当窓口、精神保健福祉センター、障害者相談センター、相談支援事業所、市町村社協 など

児童分野

福祉事務所や役場児童福祉担当窓口、児童相談所、児童家庭支援センター、心の教育センター、市町村社協 など

生活困窮分野

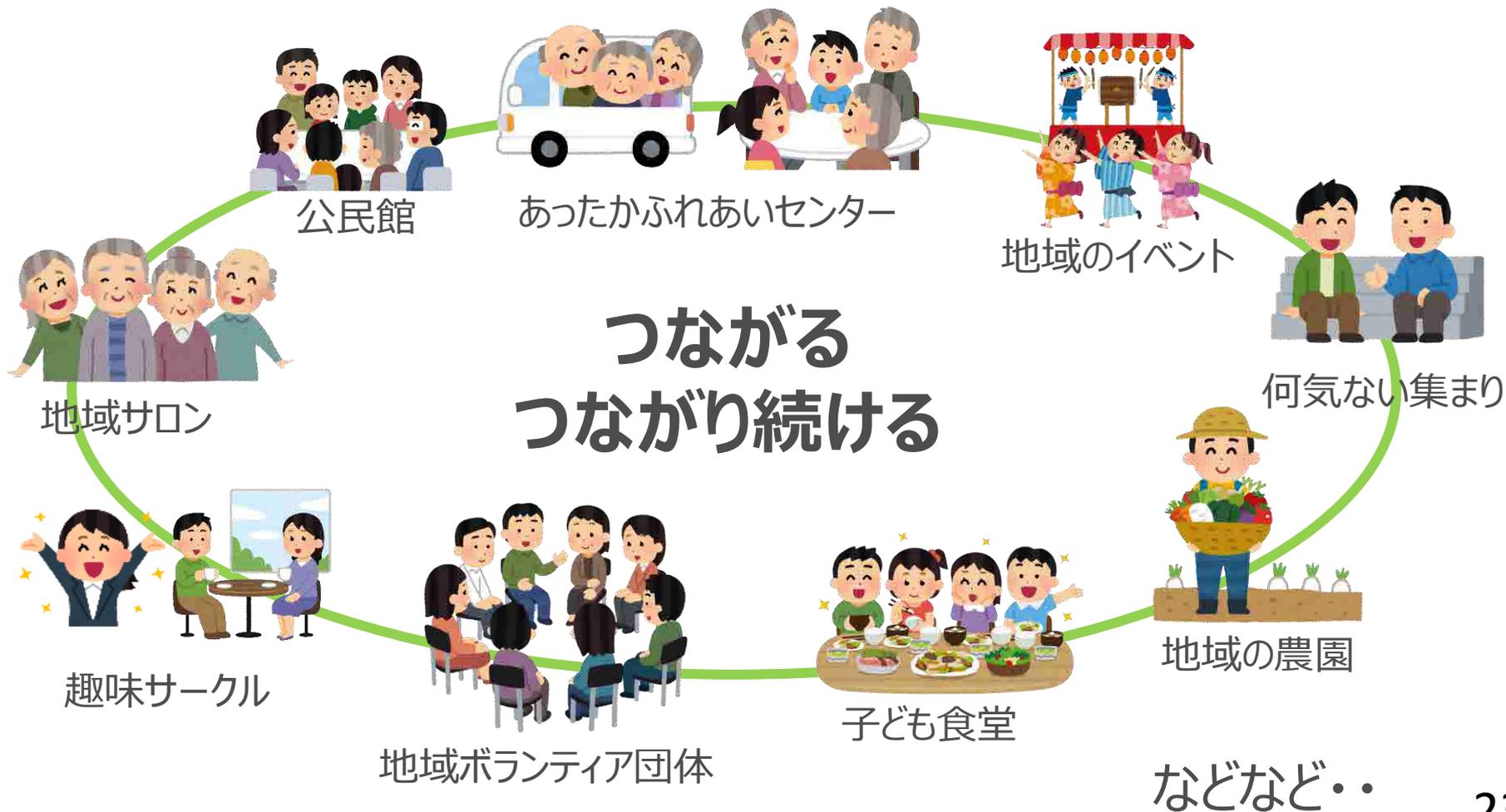
福祉事務所や市町村社協、NPOなどの自立相談支援機関など

上記相談機関は一例であり、具体的な連絡先などは記載していません。何か気づいた際に、どこにつないで良いか分からない課題については、「つなぎ先一覧」のURL※から連絡先をご確認ください。

高知県 地域共生社会 検索

地域における集いや活動

・さまざまな世代の方が“楽しみ”や“生きがい”を持ってお互いにつながる
ことができる集いの場や活動が地域にはあります



皆さんに身近な地域

地域力を高める

相談

支え合い

見守り

居場所づくり

つながりづくり

市町村圏域

連携・協働

つなぎ

行政

地域団体

集落活動センター

協働

民生委員

あったかふれあいセンター

社協

つなぎ

今の社会では・・・
人とのつながりの希薄化

複雑・複合化、制度の狭間の生活課題

⇒今までのやり方では、解決できない



「高知型地域共生社会」の実現へ

柱1 行政主体の「たて糸」

分野を超えた「つながり」を意識した
行政の仕組みづくり

➡「たて糸」として、市町村の多機関
協働による包括的な支援体制の
整備を促進

柱2 住民主体の「よこ糸」

「つながり」を実感できる
地域づくり

➡「よこ糸」として、人と人とのつながり
の再生に向けたネットワークづくりを
展開



(4) 寄り添うために留意してほしいこと

困りごとを抱えた人に

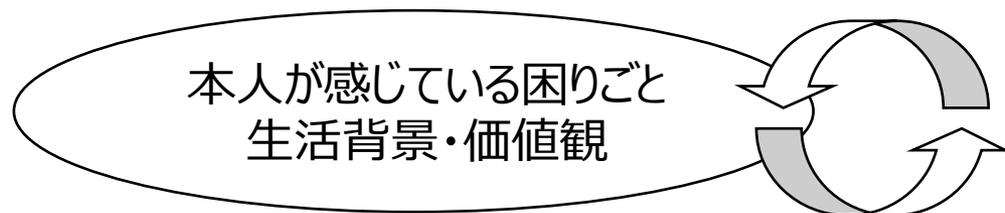
- 1 本人の立場に立つ
- 2 ありのままを受け止め、善悪をジャッジしない
- 3 自分の体験をもとに安易に励まさない
- 4 秘密を守りながらも丁寧につなぐ

どんな困りごとを受け止める
ソーシャルワーカー

社会福祉法人 香美市社会福祉協議会
生活相談センター香美 所長 徳弘 博国
(社会福祉士)



本人の立場に立つ



本人の立場に立とうと
心掛けることが必要

▶ 「しっかり聴いて理解してもらえている」という
安心と信頼が問題の解決をスムーズにします



ありのままを受け止め、善悪をジャッジしない

困りごとの原因

本人の努力不足
誤った行為・行動

~~「間違っている」
「それじゃダメだ」~~

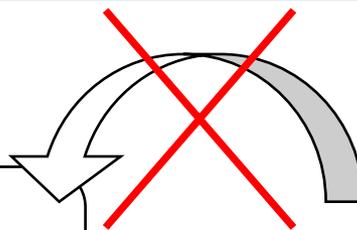
本人との信頼関係を
損なうことに...

▶ やっとの思いの言葉に、善い・悪いの判断を向けないこと
ありのままを受容し、共感的な態度で耳を傾けることが大切です

自分の体験をもとに安易に励まさない

一人ひとり異なる

- ・本人が置かれている状況
- ・これまで生きてきた道のり
- ・困りごとを乗り越える力



安易な励まし

「自分は乗り越えられた。あなたも大丈夫」

一時的な励ましで何とかなる問題はほとんどありません
問題は一つとして同じものはないことを自覚することが大切です

秘密を守りながらも丁寧につなぐ

困っている人の話す相談ごと
≡ プライバシーの塊

一方で…

聞いた方が一人で
解決できないことも事実

「誰にも言わないで」

情報共有についてご本人の了解を得たうえで、
協力してくれそうな専門機関等に繋ぐことが大切です



(5) 日々の活動のなかで気づき、つなぐためのポイント

【話し手】

社会福祉法人 香美市社会福祉協議会

生活相談センター香美 所長 徳弘 博国さん

(社会福祉士)

【聞き手】

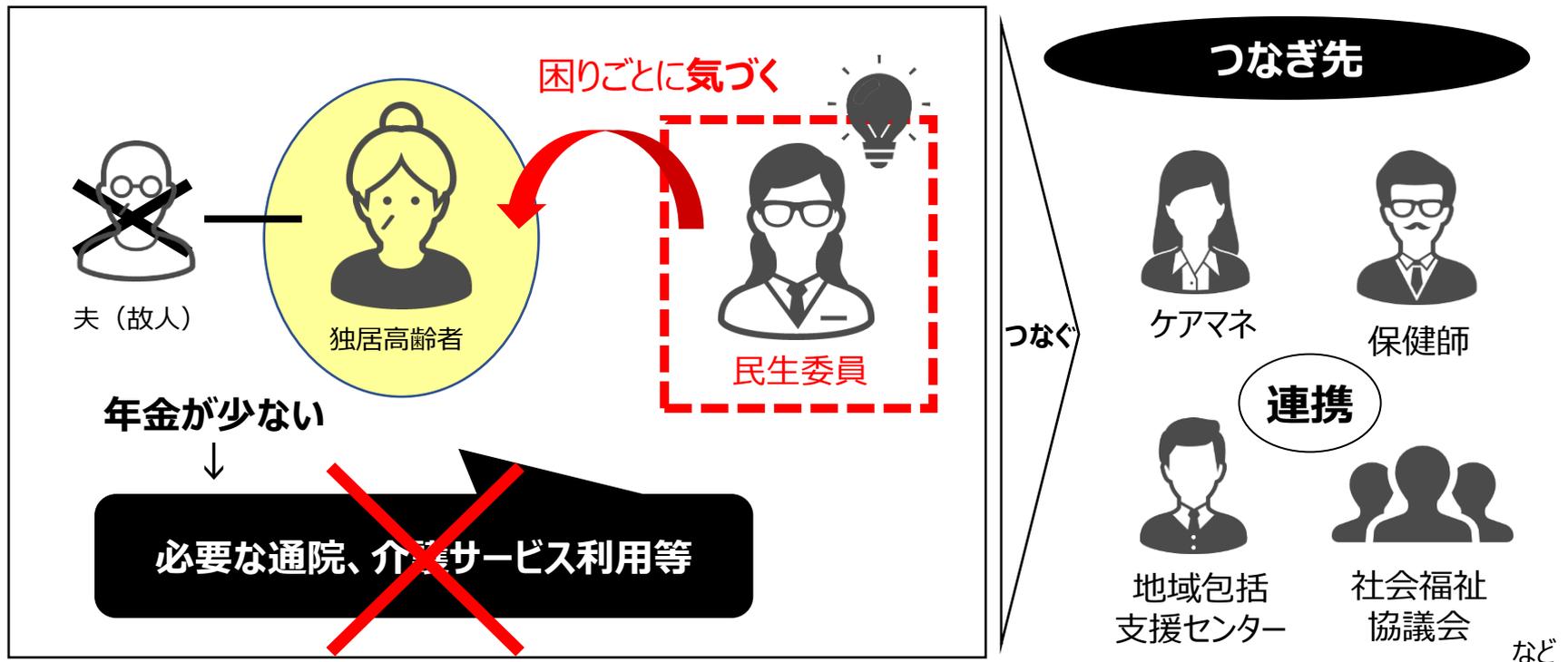
社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

地域・生活支援課 課長 仙頭 正輝

CASE1 民生委員が気づき、つないだ事例

概要

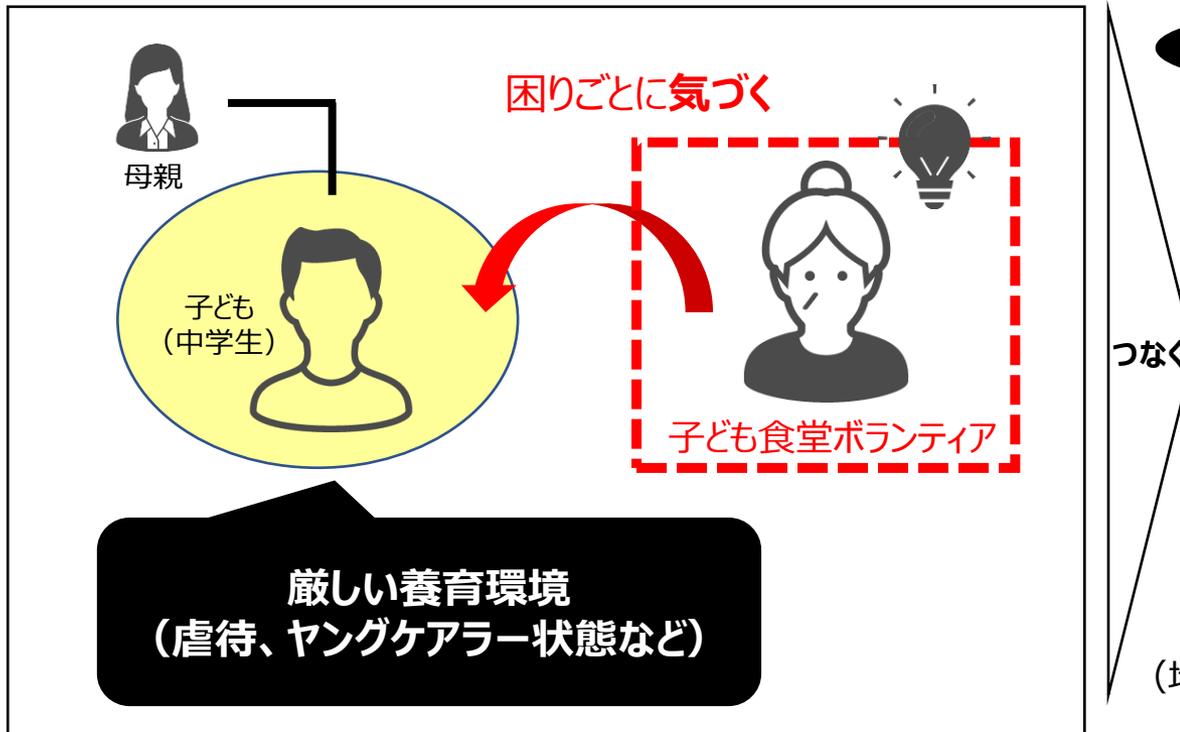
- ・地域の見守り活動をしている**民生委員**が、困りごとを抱える人に**気づき**、支援者につないだ事例
- ・ある一人暮らしの**高齢者**が、年金が少ないために、必要な通院や介護サービスの利用等を控えている



CASE2 子ども食堂で気づき、つないだ事例

概要

- ・子ども食堂に協力しているボランティアが、参加している子どもとの何気ない会話の中で気づき、支援者につないだ事例
- ・参加している子どもが、家庭での虐待やヤングケアラー状態にあるなど、厳しい養育環境にあることが判明



つなぎ先



学校



スクール
ソーシャルワーカー



主任児童委員
(地区民生児童委員)



社会福祉
協議会

など

知事からのメッセージ

高知県知事 濱田 省司

アンケートでご記入いただいたメールアドレスに
「高知家地域共生社会推進メンバー」
の**メンバー証**をお送りします

アンケートへの
ご回答を
お願いします



ご視聴ありがとうございました！